

キャベツ

コナガ

発生の動向

- 1 基準圃場(北上市成田)におけるフェロモントラップ年間誘殺数は、平成28年以降、おおむね増加傾向である(図1)。
- 2 軽米町におけるフェロモントラップへの年間誘殺数は、令和2年以降、増加している(図2)。
- 3 岩手町におけるフェロモントラップへの年間誘殺数は、平成30年以降減少傾向だったが、令和6年に増加した(図3)。

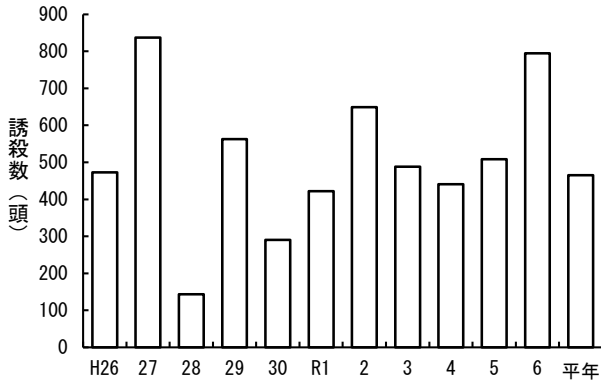


図1 基準圃場(北上市成田)におけるコナガのフェロモントラップ年間誘殺数の年次推移

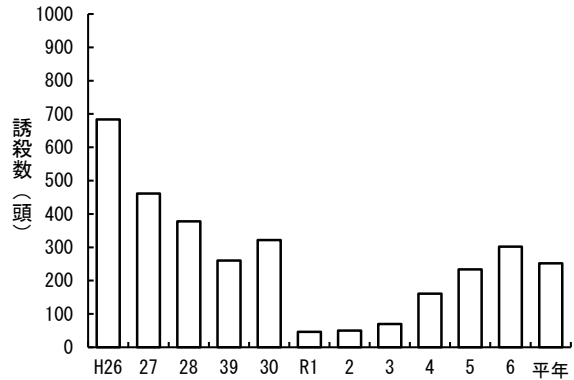


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ年間誘殺数の年次推移

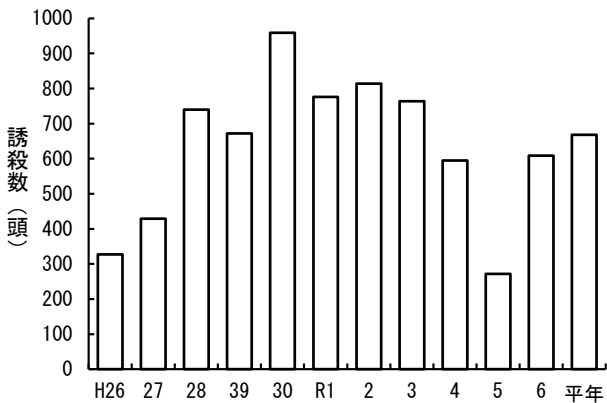


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ年間誘殺数の年次推移

防除対策

- 1 本種は本県露地での越冬は難しいと考えられるが、越冬源となる可能性がある育苗施設内の残さや雑草等は、育苗開始前に除去する。
- 2 本県におけるコナガのフェロモントラップへの誘殺は3月以前から確認される場合もあるため、発生状況を確認しながら防除を行う。
- 3 セル苗へのかん注処理や定植時の粒剤施用に、茎葉散布を組み合わせた防除を行う。
- 4 ジアミド系殺虫剤抵抗性コナガによる被害拡大を防ぐため、ジアミド系殺虫剤の使用はかん注処理を含めて1作型1回を厳守すること。
- 5 薬剤抵抗性が発達しやすい害虫なので、系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布を行い、1系統1作型1回の使用にとどめる。

ヨトウガ

発生 の 動 向

- 1 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの年間誘殺数は、平成30年以降、それ以前と比較して少なく推移している（図1）。
- 2 軽米町におけるフェロモントラップへの年間誘殺数は、年次により差があるが、令和元年以降、やや増加傾向である（図2）。
- 3 岩手町におけるフェロモントラップへの年間誘殺数は、おおむね増加傾向である（図3）。

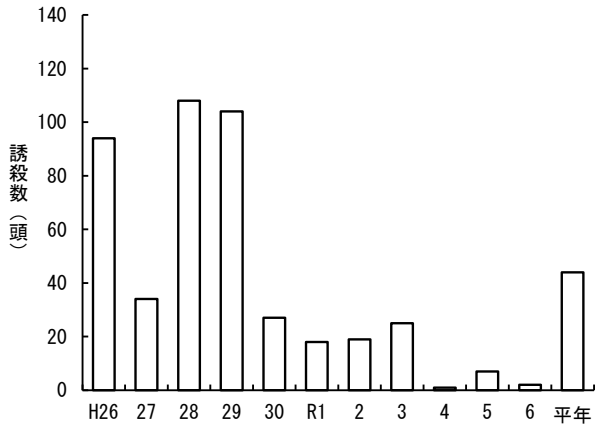


図1 基準圃場(北上市成田)におけるヨトウガのフェロモントラップ年間誘殺数の年次推移

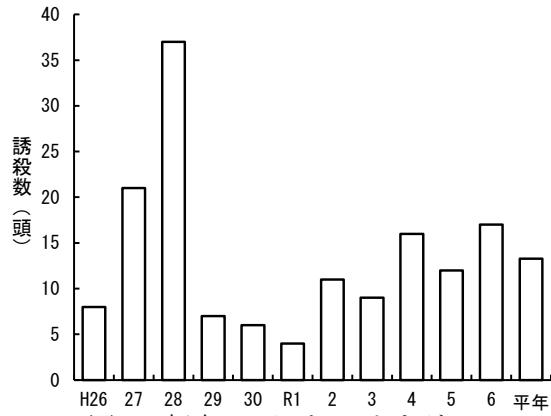


図2 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ年間誘殺数の年次推移

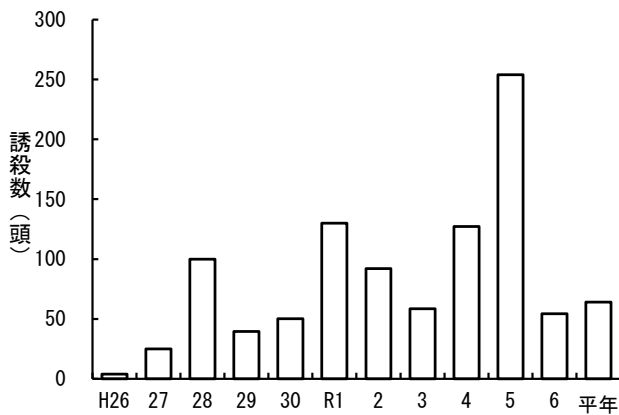


図3 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ年間誘殺数の年次推移

防 除 対 策

- 1 発育が進んだ幼虫は防除が困難となるため、圃場をよく観察し、卵塊やふ化幼虫が見られたらヨトウガに効果の高い薬剤を選択する。
- 2 第1世代成虫の産卵期間は長く、1卵塊当たりの卵数も多いため、圃場の様子を観察しながら、発生が長引くときは追加防除を行う。